結実の未来

小長井 2002

Konagai Town Guidebook

時の萌芽

暮らしの開花

夢の結実

平成14年 小長井町勢要覧

町の花　山茶花

結実の未来

小長井町勢要覧

発行◎平成14年　小長井町
〒859-0194　長崎県北高来郡小長井町小川原浦名500
TEL.0957-34-2111（代表）／FAX.0957-34-2335
ホームページ http://www.konagai.org/
E-mail kikaku@konagai.org
制作◎（株）ブレイントラスト

小長井町は、長崎県と佐賀県の県境に位置する風光明媚なまちです。明治22年の町村施行によって小長井村が誕生するとともに、昭和41年11月1日の町制施行で現在の小長井町としてスタートし、以来、めざましい発展を遂げてきました。

町では現在、新しいまちづくりとして、"ハートフルこながい―豊かな自然に包まれ、人が元気になるまちづくり"をキャッチフレーズに掲げ、住環境の整備、産業の育成、教育・文化・福祉・観光施設の充実など、さまざまな分野で積極的な取り組みを実施しています。

小長井町ではこのたび、21世紀をめざすまちの息吹を紹介するために、要覧「結実の未来」を発刊することとなりました。どうぞご高覧いただき、新しいまちづくりの姿をご理解いただければ幸いです。

小長井町長　**古賀忠臣**

平成14年　小長井町勢要覧　目次

時の萌芽
- 歴史探訪 …… 3
- 自然紀行 …… 6
- 高原散策 …… 8
- ふれあい座談会 …… 10

暮らしの開花
- 住環境の整備 …… 15
- 防災・消防の充実 …… 16
- 産業の育成 …… 17
- 教育・スポーツ・文化の振興 …… 20
- 観光振興の推進 …… 21
- 保健・医療・福祉の充実 …… 22

町長が語る 夢の結実 …… 24

理想のまちをめざして
―住民自治を実践する多彩な取り組み― …… 26

行政・議会 …… 28

こながいイラストマップ …… 30

小長井町の沿革・位置・地勢・地質・町章・町の花・町の木・小長井町民憲章 …… 32

結実の未来

時の萌芽

まちに息づく独自の歴史を守り、
美しい自然を育て、
ふれあいに満ちた心豊かなまちをつくる。
過去から現在へと受け継がれてきたまちづくりの種子が今、
輝く陽光を浴びて元気に芽吹き、
新しいエネルギーとなってまちに広がっている。

暮らしの開花

「小長井町総合計画」を柱に、新世紀のまちづくりがスタートした。
力強い産業を育て、住みやすい環境を整備し、
誰もが健康に暮らせるまちをつくる。
7000人の笑顔が咲くふるさとづくりに向け、
小長井町は今、大きく動きはじめている。

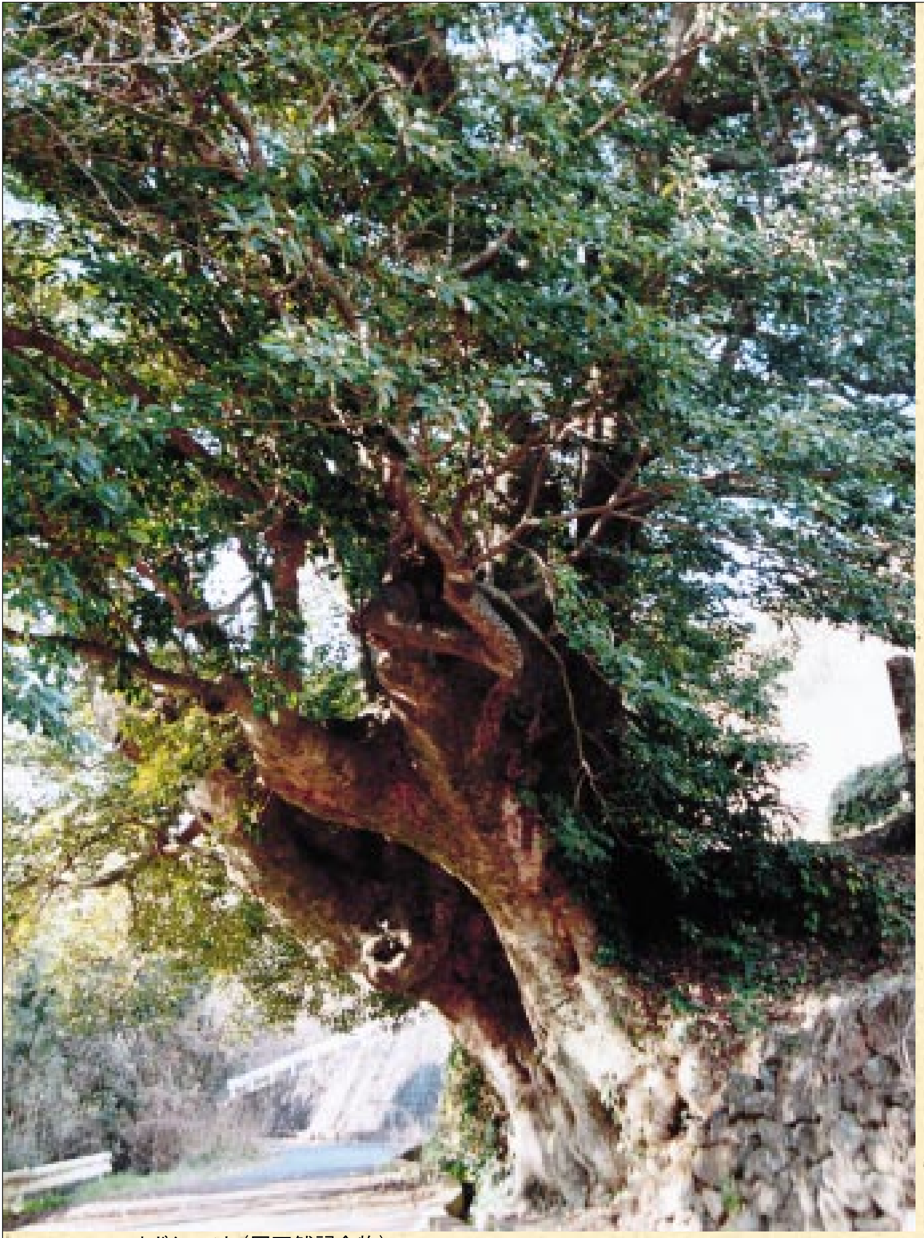
夢の結実

もっと快適で、豊かな暮らしを実現したい。
それはまさにすべての町民の共通の願いである。
新世紀を迎え、着実に歩みはじめた小長井町。
まちづくりの種子は町民のパワーを受け、
さらに大きな花を咲かせようとしている。

時の萌芽（ほうが）

まちに息づく独自の歴史を守り、
美しい自然を育て、ふれあいに満ちた心豊かなまちをつくる。
過去から現在へと受け継がれてきたまちづくりの種子が今、
輝く陽光を浴びて元気に芽吹き、
新しいエネルギーとなってまちに広がっている。

歴史探訪



オガタマノキ（国天然記念物）

「オガタマノキ」は、たくましい生命力にあふれたまちのシンボル。

長崎方面から国道２０７号を通って小長井町に入ると、すぐ右手に小さな雑木林が見えてくる。これが町の指定文化財「大峰古墳」である。

この古墳は、古墳時代中後期の前方後円墳であったと推測されているが、封土の約半分が削られ、羨道（えんどう）も壊れているため、今ではほとんどその面影が残っていない。しかし、内部が巨大な石で囲まれ、天井石と天井石の間が棚のように間隔がつくられているという点で、極めて価値の高い史跡となっている。

左手にＪＲ長里駅を見ながら国道２０７号を走り、足角バス停の手前を左折すると、のどかな田園風景が広がる打越・川内地区にたどり着く。その集落を通り抜け、坂道を上ったところにあるのが国の天然記念物「オガタマノキ」だ。道路にかぶさるように枝を広げたこの巨木は樹高20メートルで、幹の周りが9.1メートル。さすがに樹齢１０００年以上といわれるだけあって、間近で見るとたいへん迫力がある。

オガタマノキは木肌が緻密で美しいため、建築材や家具材としてよく利用されるという。これまでにも何度か伐採されたが、その度に切り口から新しい芽が伸び、力強く広がっているのだ。さらにエノキや

大峰古墳（町指定文化財）

南平墓石群（町指定文化財）

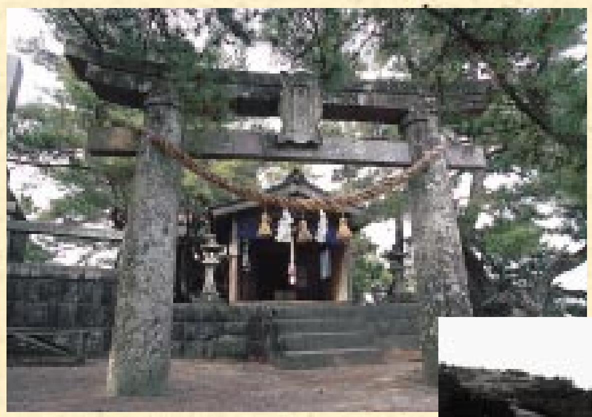
ムクノキなどが着生し、まるで1本の木からさまざまな木の葉が生えているように見える。まさにたくましい生命力を感じさせる、まちのシンボルである。

通って来た道を戻り、再び国道207号へ。表示板に従って右折すると、有明海の手前に県の重要文化財「長戸鬼塚古墳」がある。この古墳は形状が円墳で、墳丘の直径が約15メートル。高さは5メートルほどあり、周囲を開墾した際には、箱式石棺が7～10基ほど発見され、その中から人骨や鉄刀などが出土されている。壁面には船と鯨を描いた模様が刻まれているが、これは古代人が有明海で捕鯨を行っていたことを証明しており、当時の人々の生活を知る上で貴重な史跡となっている。

300年以上の歴史を誇る「井崎まっこみ浮立」。

JR小長井駅の南側には、老松が生い茂る「目島神社」がある。かつては潮が満ちてくると海面に浮かぶ離れ小島であったが、長崎本線の開通によって埋め立てられ、現在は陸続きになっている。ふと案内板に目を向けると、『岩山そのものが御神体として古代の形をそなえ、七福神の妙見さんを奉ることから、別名「女島神社」と呼ばれる』と書かれている。その昔、目の神様として崇められたこの神社は、佐賀や長崎からの参拝者でたいへんな賑わいを見せたに違いない。

さらにまちを北上してみよう。小長井大橋を渡ると井崎地区である。この地区には、300年以上も前から受け継がれる「井崎まっこみ浮立」がある。これは五穀豊穣や雨乞いなどを祈願する際に行う伝統芸能。各種神事や慶祝行事などで



目島神社

六地蔵さん

長戸鬼塚古墳（県重要文化財）

陸続きになる前の目島付近

前室の腰石に刻まれた鯨の線刻画

歴史探訪

地域の大切な財産を、いつまでも残していきたい。

井崎まっこみ浮立の後継者
原田政和さん **原田景平**さん **宮崎舞**さん

僕たちは小学5年生から浮立をしています。小さい頃は友達と公民館に集まって練習することが楽しみでしたが、今は勉強や学校のクラブ活動などで、なかなか練習に参加できません。しかしこの浮立は、地域の人々によって受け継がれてきた大切な財産なので、そのことを忘れずにいつまでも継承していきたい。そして将来は、自分の子どもにも浮立の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

井崎まっこみ浮立（県民俗無形文化財）

粟踏浮立

鶴田遠江守の墓（町指定文化財）

披露され、昭和52年には長崎県の民俗無形文化財として指定を受けている。

地域にある史跡をめぐり、その価値をもう一度見直していく。

町の北側に位置する遠竹地区には、町の指定文化財「鶴田遠江守の墓」がある。権現岳周辺は、かつて鶴田遠江守の居城があったといわれ、宝篋印塔や五輪の塔と呼ばれる石を積み重ねた墓が数十基発見された。しかし、それらは放置された状態で山中に埋もれていたため、昭和50年頃に村人たちが話し合い、現在の場所に整理したのだということ。すぐ近くには「南平墓石群」と呼ばれる史跡もあるが、年代やいわれなどはまったく不明で、遠江守一族の墓ではないかと推測されている。いずれも共通しているのは、墓の大きさに多少の違いはあるものの、形が非常に似ていること。また、保存状態も比較的良く、近隣の住民によって今も大切に守られていることがうかがえる。

また、この地区には「粟踏浮立」と呼ばれる伝統芸能がある。これは6歳から10歳前後の男の子12人が5色の七夕紙の御弊を持って、笛の曲に合わせて威勢よく押し合うもの。厄難を振り払う行事として、毎年盆の16日に奉納されている。

小長井町では、このような歴史的な遺産を保護し、子孫に継承していくため、史跡の整備を進める一方、広報紙や町内史跡めぐりなどを通して、町民の意識向上を図っている。地域にある史跡をめぐり、その価値をもう一度見直していく。その一つひとつの行動が、小長井町の未来を支える大きな原動力になっていくのである。

仏石

今から、四百年あまりの前のお話です。井崎村、小川原浦村には少しばかりの人家があり、人々は谷間にわき出る泉に頼って、飲み水や農業用水をまかなっていました。しかし日照りが続くと、米が不作になり、年貢を納められない時もあったため、お殿様は山手にある田原盆地にため池をつくるように命じ、西円寺の和尚さんは慣れ親しんだ土地を離れることになった田原の人たちを不びんに思い、仏様も新田原へ移すことにしました。

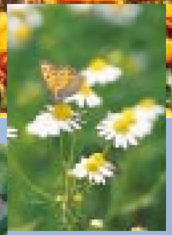
次の日、和尚さんは仏様を大切に背負って、新田原へと歩き出しました。ちょうどお日様が頭の上に来た頃、大きな石に腰をかけ、休憩を取った後、腰をあげようとしましたが、仏様が石から離れずびくともしません。すっかり困ってしまった和尚さんは、いろいろ考えたあげく、足をもとの田原の方へ向けると、急に仏様が軽くなり、やすやすと石から離れました。

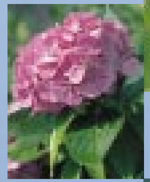
「さて、『田原の地にとどまりたい』と、仏様はお考えじゃの」。和尚さんはそうつぶやくと、もと来た道を西円寺へと引き返していきました。

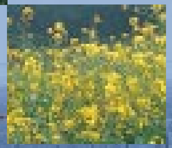
『こながい昔ばなし』より抜粋

ふるさとの風景が広がる自然郷。

❶フルーツのバス停







キラキラと輝く美しい有明海。

長崎県と佐賀県の県境に位置する小長井町は、青い海と緑の山に囲まれた風光明媚なまちで、国道207号がまちを横断するようにJR線とほぼ並行して佐賀方面へと続いている。道路に設けられたひときわ目立つバス停。これはメロンやいちごなどの特産品を型どったもので、まちを訪れた人の気持ちを和ませてくれる。

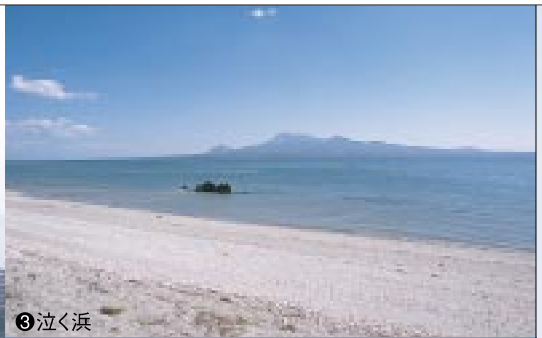
国道沿いの道路公園に車をとめ、しばらくキラキラと輝く有明海や対岸にある雲仙岳を眺めていると、沖合いにシュプールを描きながら漁場へ向かう小さな漁船が見える。新鮮な海の幸を育み、家庭の食卓を支えてきたこの海では、今もなお、定置網やアサリの養殖などがさかんに行われているのである。

再び車に乗り込み、役場の前を通って小長井大橋を渡る。右手に見える砂浜は、春になると潮干狩りを楽しむ人々で賑わいを見せるところだ。かつて多良岳の神様に鳥居をつくるように命じられた鬼が、約束を守れずにこの浜で泣いたことから、地元では"泣く浜"と呼ばれ親しまれているという。じっと耳を澄ますと、波の音に混ざって鬼の泣く声が聞こえてきそうである。

❷有明海

自然紀行

❹毘沙天岳山頂から見た眺め（柳新田〜有明海〜雲仙）



❸泣く浜

❼田原溜池

❽のどかな風景が広がる車道

❻多良岳レインボーロードと黒仁田大橋

❺基盤整備されたみかん畑

❹毘沙天岳にある祠

いつまでも守りたいまちの風景。

国道を北上し、築切から土井崎へ。メロンの形をしたバス停前から左の細い道路に入り、JR線をくぐって遠竹小学校の前を通り過ぎると毘沙天岳公園だ。

車から降り、小鳥たちの声に耳を傾けながら緩やかな山道をのぼっていく。3分ほどで見晴しのよいポイントに到着である。ここからの眺めは抜群にすばらしく、晴れた日には多良岳や遠くは雲仙普賢岳方面の風景を楽しむことができる。時おり吹き抜ける風が何とも心地がよい。

しばらく眺望を楽しんだ後、公園を出て、車を走らせる。かつて竹崎街道と呼ばれていた道路は、現在、"多良岳レインボーロード"と名称を変え、広域農道として利用されている。先ほど通ってきた国道とは少し違った山の景色を楽しみながら、黒仁田大橋、田原大橋を通り、大きな交差点へ。ここから案内表示板に従って右折し、田原溜池を右手に見ながら進むと、観光スポットとして人気の高い山茶花高原までもうすぐだ。

小長井町では、今でもまちのいたるところに手つかずの自然が残っており、美しい景色を満喫することができる。やわらかな日ざしを浴びて新緑が芽吹く春、さんさんと太陽が輝く夏、コスモスや山茶花の花がまちを彩る秋、そして新しい春を迎えるための準備を始める冬…。小長井町の豊かな自然は、このまちで暮らす人々にとっていつまでも守りたいふるさとの風景であり、町外から訪れる人にとっても、心を癒す憩いの空間となっているのである。

 ❾道端に植えられた花

山茶花高原

新しいエネルギー源として注目を集める風力発電。

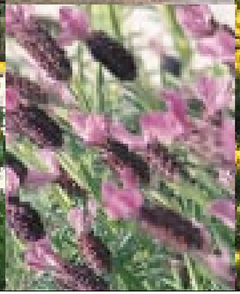
小長井町役場から車で15分ほどの距離にある山茶花高原は、休日になると多くの人々で賑わいを見せる観光スポット。標高450メートルのこの高原は、豊かな自然に恵まれており、周囲を見渡せば、多良岳や有明海などの美しい風景を眺めることができる。また、秋になるとコスモスが沿道を華やかに彩り、その美しい風景はまちの風物詩として人気を集めている。

広々とした高原にひときわ目立つ2基の風力発電。これは地球環境を守り、近年世界的な規模で問題となっている地球の温暖化を防ぐエネルギーとして導入されたもので、発電した電力は、高原内の各施設で活用。クリーンで無限なエネルギーを生み出す風力発電は、21世紀の新しいエネルギー源として注目を集めている。

充実した施設を誇る、小長井町の観光拠点。

山茶花高原は大きくピクニックパークとハーブ園に分かれており、ピクニックパークには芝生広場をはじめ、オフロードカー、スポーツスライダー、パターゴルフ場などの楽しい施設が充実。また、ハーブ園は西日本最大級の施設として、園内に約250種にのぼるハーブが栽培され、館内のレストランやショップなどで四季おりおりのハーブにふれることができる。

小長井町では現在、より多くの人々に山茶花高原へ足を運んでもらうため、世界中の珍しい花の展示や風力発電を利用した温室設置の検討、3基目の風車の建設など、さらに魅力ある施設づくりを進めている。子どもから大人まで、一日中楽しむことができる山茶花高原。ここはまさに、訪れた人々にゆとりや安らぎを提供する観光の拠点なのである。



高原散策

ハーブ園「香の館」

商品内容の充実を図り、さらにこの施設をアピールしていきたい。

ハーブ園マネージャー
酒井香織さん

小長井町では平成3年の山茶花高原ピクニックパークのオープン以来、高原内の施設の整備を進めてきました。なかでも私が携わるハーブ園では、多彩なハーブの展示や販売を行っており、年間を通じてたくさんの方々に足を運んでもらっています。これからも西日本一のハーブ園をめざし、さらに商品内容の充実を図っていきたいと思っています。

榎並信男さん（47歳）　**中村静香**さん（13歳）　**藤山晴子**さん（63歳）　**田川美沙子**さん（13歳）　**内田恒美**さん（62歳）

ふれあい座談会

Heartful Talk

小長井町には、より快適でうるおいのある生活を実現するため、
さまざまな分野でボランティア活動に取り組む人たちがいる。
お互いのことを理解し、協力し合う——。
ふるさとを愛する人々の情熱が、小長井町をさらに魅力あるまちにしていく。

Tsunemi Uchida

ボランティア活動を続けるためには、仲間同士のチームワークが大切です。

それではまず最初に自己紹介を兼ねまして、皆さんが現在、どのような活動を行っているのかをお聞かせ下さい。

内田…理容業をしている私は、心身障害者施設「みさかえの園」と特別養護老人ホーム「小長井希望園」で散髪の奉仕を行っています。もともと私がボランティア活動を始めたのは、昭和38年に諫早市のさいとう会（現在の経営懇談会）の活動を手伝ったことがきっかけだったのですが、その後、施設の人数が急激に増加したため、町の理容組合の協力を得て本格的に取り組むようになりました。

この奉仕活動にはピーク時で12人ほどが携わっていましたが、年々人数が減少し、現在では小長井町から4人、町外から1人の計5人が月に1回のペースで参加しているところです。

施設での散髪奉仕

榎並…私は建設会社を経営しており、4年ほど前から建築士会諫早支部の小長井分会の集まりの時に、町内でできることについて話し合うようになりました。この会には建築関係の仕事に携わる人が参加していますが、町内の小中学校から依頼を受け、夏休みなどの長期休暇を利用して、天井や床といった箇所の修理や修繕を行っています。

また、これとは別に月に1回、第4日曜日におがたま会館で「住宅相談所」を設けており、これから家を建てる予定の方を対象に、専門家の立場から適切なアドバイスを行っています。

藤山…私の場合は平成4年に退職し、その頃たまたま持ち上がっていたボランティア活動に参加しようと思ったのが最初のきっかけでした。

現在の活動は、毎月第3土曜日に独り暮らしをしているご老人へ昼の弁当をつくってあげることですが、15人のメンバーのうち、ほとんどの方が他に仕事を持っていたり、子どもたちの学校行事などで忙しいため、なかなか全員集まって活動できないことが大きな悩みとなっています。また現在、70食分の弁当をつくっていますが、今後も高齢化が進んでいけば、さらに需要が高まっていくのではないかと思っています。

中村…私と田川さんは中学校のボランティア部に所属し、夏休みなどに町内の老人ホームを訪問したり、独り暮らしのお年寄りにハガキを書いたりしています。施設に足を運ぶのは年に数回しかありませんが、訪問する時にプレゼントを渡すようにしているので、放課後にプレゼントをつくることが主な活動になっています。

田川…プレゼントと言っても大きなものではなくて、小物入れのように日常生活に役立つものが多いですけどね。また、部員は8人しかいませんが、全員2年生でお互いに協力しながら、お年寄りの方に何をしてあげられるのかを真剣に話し合っています。

今日お集りの皆さんは、普段から精力的なボランティア活動をされているようですね。それでは実際にサービスを受けられている方の反応はどのような感じですか。また、皆さんがボランティア活動に参加して良かったと思うのはどんな時ですか。

ふれあい座談会
Heartful Talk

「おいしかったよ!」という一言が、何よりもうれしいですね。

内田…私が行く施設には、一人で満足に物を食べることができない子どもたちがたくさんいて、そういう子どもたちの散髪をするのはとても神経を使いますね。ただ、彼らに感情がないかと言うとそうではなく、話をするのは上手くできないけれど、自分の気持ちを目で訴えようとする。つまり、自分が嫌だと思う時はしかめツラになるし、うれしい時は笑顔になるわけですね。そういった小さい変化に気づいてあげることも、私の役目だと思っていますけど…。

榎並…先ほども言いましたように、私たちは学校から依頼を受けて、各施設の修理や修繕を行うわけですが、その場合はまず現場へ下見に行き、校長先生の立ち会いのもとで作業のポイントを決定するんです。そして実際に作業に取りかかり、すべてが終わると、学校の先生や子どもたちからたいへん感謝されます。その時の笑顔を見ると、ボランティア活動を続けていて良かったなぁと思いますね。

弁当づくりの様子

修理に必要なものはどのように入手しているんですか。

榎並…基本的に釘や工具などは自分たちが持っているものを使いますが、大きな木材などについては町の方に申請し、費用を負担してもらうようにしています。私たちのグループには、木材屋やサッシ屋など幅広いジャンルの方が参加していますので、材料の調達はあまり困ることはないんですよ。

藤山…私はやはり「おいしかったよ!」という一言が何よりもうれしいですね。また、弁当の献立は年度の初めにあらかじめその年の計画を立てますが、食材については冷凍食品ではなく、町内産の野菜や自家製の漬物などを使うようにしており、真心のこもった温かい料理を提供することをモットーに頑張っています。

田川…私が施設に行った時は、お年寄りの食事の介助をしたり、部屋の掃除をしてあげましたが、おじいちゃんやおばあちゃんから「ありがとう」と言われると、とてもうれしい気持ちになりました。私は将来、福祉の仕事に就きたいので、とてもいい勉強になりましたね。

ボランティア活動をする中でさまざまなご苦労があると思いますが、皆さんがボランティア活動を続けていく上で一番大切なことは何ですか。

内田…お互いに忙しい時間を利用して活動に参加しているわけですから、仲間同士のチームワークが何よりも大切だと思いますね。そこで私たちは親睦を深めるために、年に数回集まる機会を設け、お互いに意見を交換するようにしています。

ただ、メンバーの高齢化と後継者不足が深刻な問題で、活動を継続していくことがとても難しい状況となっているので、今後はその解決策を見つけなければいけないですね。

藤山…私は弁当づくり以外に、独り暮らしの老人を訪問したり、

ボランティア部の活動はとても勉強になります。

Misako Tagawa

皆で協力して取り組めば、どんなことでも実現できると思います。

地域の清掃活動に参加していますが、ボランティア活動を通して老人の方とふれあう機会ができたことは、自分にとっても大きなプラスになっていると思います。これからも相手の気持ちを汲み取りながら、さまざまな活動に取り組んでいきたいですね。

学校での修繕作業

榎並…これまでは学校の施設を中心に回ってきましたが、町から独り暮らしの老人の家も修理してくれないかという依頼があり、今後はそのことも前向きに検討していきたいと思っています。ボランティア活動は個人的に好きなことですが、自分一人ではできません。やはり、地域の人々が声をかけ合いながら取り組むことが一番重要なのではないでしょうか。

中村…私たちがよく話をするのは、まだまだ活動内容が不十分だということ。これからはもっと視野を広げ、いろんなボランティア活動に参加したいですね。

先ほど内田さんから後継者問題についての発言がありましたが、榎並さんや藤山さんはそのことについてどのようにお考えですか。

藤山…私のグループには最高で75歳の女性がいて、メンバーのほとんどが退職後にボランティア活動を始めている状況です。しかし、私はこれまでの活動を継承していかなければいけないと感じていますので、健康でいる限りはいろんなことに挑戦し、私たちが頑張る姿を若い人にも見てもらいたいと思っています。

榎並…私は皆で協力して取り組めば、どんなことでも実現できると思っています。ボランティア活動は今後も続けていきたいので、小さなことからコツコツと積み重ねていきたいですね。

それでは最後に、一人ずつ今後の目標をお聞かせください。

中村…これからもボランティア活動に積極的に参加し、たくさんの人々に喜ばれることをしたいですね。

老人ホームの訪問

田川…もっとお年寄りとふれあう機会をつくって、将来の仕事に役立てたいです。

藤山…これからも食材にこだわり、おいしい弁当を提供していきたいと思います。

榎並…仲間たちと協力し、学校だけでなく、独り暮らしの家の修理にも力を入れていきたいですね。

内田…今までの活動をムダにしないためにも、今後も継続して頑張っていきたい。そのためにも、自分自身の健康にじゅうぶん気を配っていく必要がありますね。

皆さんがボランティア活動に取り組む姿は、小長井町をさらに魅力あるまちにするための大きなパワーになるはずです。これからもそれぞれの分野で頑張ってください。皆さんのご活躍を期待しています。

もっといろんなボランティア活動に参加したいです。

Shizuka Nakamura

暮らしの開花

「小長井町総合計画」を柱に、新世紀のまちづくりがスタートした。
力強い産業を育て、住みやすい環境を整備し、
誰もが健康に暮らせるまちをつくる。
7000人の笑顔が咲くふるさとづくりに向け、
小長井町は今、大きく動きはじめている。

若者が住みたくなるまち

フルーツのバス停

［住環境の整備］

町内の自然を守りながら、快適で安全に暮らせる生活基盤の実現をめざす。

小長井町の人口は、少子・高齢化の影響で年々減少していますが、核家族化の進行によって世帯数そのものは増加傾向にあります。このため町では、良質な住宅を提供していくことで町外からの若者の定住促進を図るとともに、高齢者向けのバリアフリー住宅を整備し、自然環境に恵まれた町の住み心地の良さを他の地域へアピールします。

また、生活水準の向上やライフスタイルの多様化が進む一方で、生活環境が汚染されており、今後はその対策が求められています。町では水質保全意識の高揚や水洗化の促進を図りながら下水道整備を進める一方、ごみの減量化や再利用化、資源化に取り組み、し尿処理についても広域処理体制の整備を推進します。

町内の美しい自然を守っていくためには、町民の協力が何よりも必要です。町では「小長井町環境美化の推進に関する条例」（平成6年度施行）や「小長井町環境及び景観保全条例」（平成12年度施行）に基づき、住みよい郷土の実現をめざして自然環境、生活環境及び社会環境を守る取り組みを進めており、町民の環境保全意識の醸成や地域環境の美化に努めています。

さらに、安心・安全な水の安定供給を図るとともに、道路交通網の整備を体系的に進め、町民にとって快適な生活基盤の実現をめざします。

船津ダム

町営住宅（田原地区）

広域農道の開通式

ゴミ焼却場

小長井駅

［防災・消防の充実］

防災対策の強化や交通安全教育の推進に取り組み、町民の生命や財産、公共施設などを守る。

小長井町は町全体が傾斜地で、地盤も弱いため、災害が発生しやすい状態となっています。なかでも台風や集中豪雨による崖崩れなどはこれまでにも大きな被害をもたらし、町では平成5年度に防災行政無線を設置して、防災体制の強化に努めてきました。今後も町民の生命や財産、公共施設などを守るため、救助訓練や避難訓練を通して災害発生時の体制強化に努めるとともに、町民と一体となって犯罪や火災を未然に防ぐための取り組みを進め、安心して暮らせるまちづくりをめざします。

また、広域市町村圏における消防施設の整備を促進する一方、救急医療においても近隣の市町と連携し、救急業務の迅速化、救急医療システムの充実を図ります。

さらに交通事故のない安全なまちをめざして、道路の安全性の向上に努めるとともに、学校教育や社会教育の中で交通安全指導や交通安全運動を進め、町民の交通安全に対する意識を高めます。特に高齢者に対しては、夜間・早朝外出時の交通安全対策を充実させます。

交通安全指導

各分団の集合

防災無線

出初め式

放水競技

ハウスみかん

ハーブ

アスパラガス

いちご

［産業の育成］

豊かな自然を活用し、たくましい産業を育成する。雇用の拡大を図り、活気のあるまちをつくる。

◎農業

基幹産業の農業は農家数、農業就業人口がともに減少傾向にあり、地域農業の担い手不足が深刻な問題になっています。町ではUターン者やIターン者などの新規参入者に研修機会を与えたり、リースハウスを貸与するなど、就農条件の緩和によって農業後継者の育成を図っています。また、耕作放棄の発生を防ぐため、認定農業者に遊休農地を集積する一方、基盤整備に取り組み、農地の流動化を推進します。さらに畜産と耕種部門との連携による「有機の里づくり」運動や、高品質みかんの栽培、アスパラガスや花きなどのブランド化を展開し、消費者ニーズに対応した生産体制の実現をめざします。

◎林業

近年の地球環境問題で森林機能の役割が評価されるなか、本町での林業は見直しの時期に直面しています。町では山林の持つ機能を重視しながら林業生産の省力化、効率化を図るとともに、林業技術の講習会や研修会を開催し、担い手の育成に力を入れます。

古代米

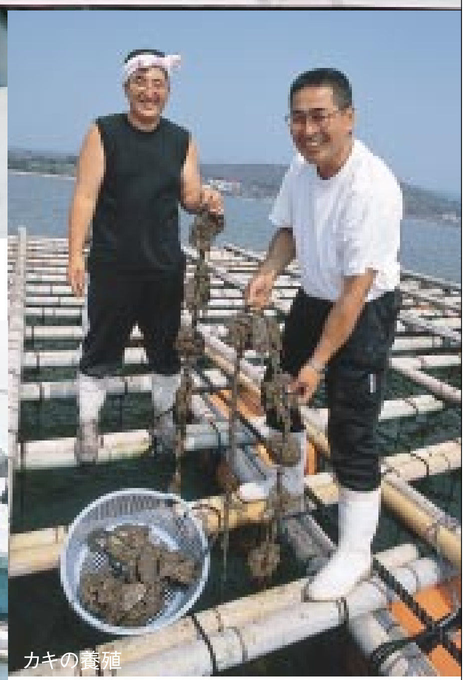
古代エンドウ

森林での技術研修

刺し網漁

◎水産業

かつて"宝の海"と呼ばれた有明海は、近年の環境負荷の増大から漁獲高が急激に落ち込んでおり、町特産のタイラギは平成5年以降、ほとんど収穫できない状況となっています。町ではつくり、育てる栽培漁業への転換を積極的に進める一方、養殖アサリやカキなどの小長井ブランドの確立をめざし、漁家の経営安定を図ります。また、有明海に流れ込む生活排水や工場排水などの水質管理に取り組むとともに、都市住民や町民を対象にしたイベントを実施し、小長井町の海産物のPRと消費拡大に取り組みます。


カキの養殖

漁協直売店

定置網漁

エビ漁

潮干狩り

縫製工場

◎鉱工業

町では古くから採石業がさかんで、採掘された石は「帆崎石」として知られています。これまでは有明海沿岸の干拓地の基礎栗石や石垣用の間知石など、土木工事用として利用されてきましたが、近年の需要の減少によって現在は捨石や砕石としての利用が多くなっています。今後は「石」の持つ特性を活かした加工品の開発など、自然環境や景観に配慮した新たな方向性が求められています。

その一方で、農林水産物などを活かした地場産品加工工業の育成や、小長井町に適した企業誘致の推進を積極的に図り、新たな就業の場の確保に努めます。

採石場

たらみ小長井工場

◎商業

小長井町の商業は、諫早市まで車で約25分という利便性や河川による集落の分断という地理的な制約によって商業が発展しにくい状況にあり、町民の普段の買い物は諫早市など近隣の市町に拡散しているのが現状です。このため町では、高齢者向けの宅配サービスの充実・拡大で地元密着型の商店へ転換を図る一方、中小商店の近代化・合理化を進め、魅力ある商店づくりをめざします。また、町ぐるみで特産品の開発に対する意識を高め、農業・漁業の産地化、農林水産加工品の開発に取り組みます。

商店での買い物風景

中学校の英会話授業

[教育・スポーツ・文化の振興]

充実した教育環境の整備で、健全な青少年の育成をめざす。文化財に対する意識を高め、町の伝統行事や芸能を継承する。

魅力あるまちをつくるためには、人づくりも重要な要素の一つです。町では、家庭と保育所の連携で幼児教育の充実を進める一方、情報紙や勉強会などを通じて家庭における教育の重要性を訴え、地域ぐるみで幼児を育てる環境を整備します。

社会情勢の急激な変化に伴い、小中学校における教育も変化が求められています。現在、町には町立小学校3校、中学校1校があり、1クラス20～30人とゆとりのある編成になっていますが、近年の人口減や少子化の影響で生徒の数も減少傾向にあります。このため町では、基礎学力の定着を目標にしながらより良い教育方法を研究するとともに、心の教育や学校設備の整備、教職員の資質・能力の向上にも力を入れ、たくましく温かい心を持った児童生徒の育成を進めています。

また、ライフスタイルの多様化で余暇活動のあり方が見直されていることを踏まえ、町民のニーズに対応した講習会の開催や町民主導による学習会開催の奨励、スポーツ・レクリエーション大会の企画・開催などを推進。大人から子どもまで楽しみや生きがいを見出せる時間と空間を提供します。

さらにオガタマノキや井崎まっこみ浮立といった地域の文化財や郷土芸能を保存・継承していくため、町民一人ひとりが文化財の保護や調査に取り組めるような環境を整備します。

山茶花ロードレース大会

民謡（なでしこ会）

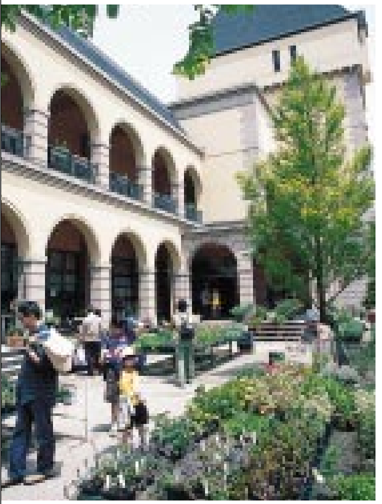
小学校のパソコン授業

町内史跡めぐり

町民体育会

声楽（さざんかコーラス）

のんびり交流のまち



[観光振興の推進]

一日中のんびりと過ごせる観光地づくりを進める。町民が主体になって、訪れた人をもてなす。

豊かな自然景観に恵まれた小長井町では、平成3年の山茶花高原ピクニックパークの開園以来、ハーブ園「香りの館」や「航空機館」などの観光施設が次々とオープンしました。

しかし、町を訪れる観光客は平成8年の62万5千人をピークに減少しており、今後さらに観光客を増やすためには、一度訪れた人がまた来たくなるような魅力あるまちをつくっていく必要があります。

このため町では、都会にない豊かな自然を活かして、訪れた人が一日中のんびりと過ごせる観光地づくりを進めるとともに、山茶花高原を中心とした「遊びの場」、史跡や文化財を活用した「学びの場」、農業や漁業体験を通じて町民とのふれあいを楽しむ「体験の場」を整備し、自然と人とのふれあいによるのんびり交流をめざします。

また、公園整備や沿道の緑化によって、美しいまちづくりに対する町民の意識向上を図る一方、観光施設周辺の清掃なども積極的に取り組み、もてなしの心で訪れた人を温かく迎えます。

乳児検診

保育園

温かなふれあいのあるまち

[保健・医療・福祉の充実]

三世代交流や町民の健康維持を図りながら、誰もが安心して楽しく暮らせるまちをつくる。

少子化や働き盛りの若者の町外流出などで高齢化が急速に進行していますが、小長井町における高齢者の多くは元気に地域社会のなかで活躍しています。町では高齢者の知恵や技術を活かしながら、高齢者、親、子どもの三世代交流を促進し、対話やふれあいを通じて、お互いに理解し、助け合い、協力し合える地域社会の形成をめざします。

町民にとって、健康は安心して暮らしていくために不可欠なものです。このため町では毎年、全町民を対象に基本検診を実施するほか、保健予防活動として妊産婦教室や乳幼児教室、育児サークル、各種ガン検診などにも取り組み、健康相談や健康教育に力を入れています。また、既存の施設を活用した医療サービスや町内における緊急医療体制の充実、近隣の市町と連携した急患搬送体制の強化なども推進しており、いざという時に備えた医療体制の構築を図っています。

その一方で、高齢化社会に向けたデイサービスやホームヘルプサービスの充実、障害者にやさしい公共スペースのバリアフリー化なども積極的に実施。すべての町民が安心して楽しく暮らせる環境の整備を進めます。

障害者用エレベーター

予防接種

さざんか会館

みさかえの園での作業風景

在宅介護

いきいき長寿の集い

デイサービス

町長が語る

夢の結実

町民参加でめざす新世紀の小長井づくり

私たちが住む小長井町は自然に恵まれたまちで、四季おりおりの美しい風景がまちの大きな魅力となっています。また、町内にある「長戸鬼塚古墳」や「井崎まっこみ浮立」などの文化財も見どころの一つで、それらは町民の手によって大切に守られています。

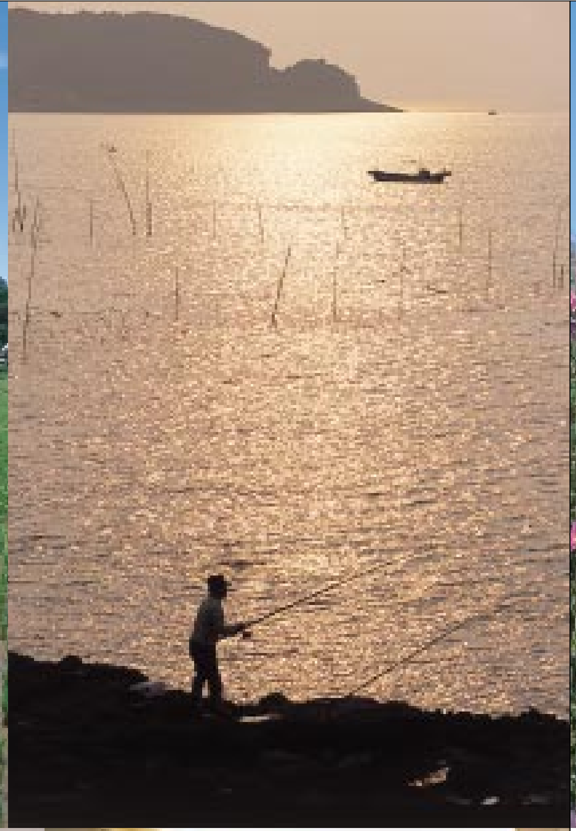
小長井町では昭和46年に「小長井町基本構想」を策定し、自然環境を活かした豊かな町民生活の実現をめざしてきました。その後、少子・高齢化、国際化、高度情報化など地方自治体を取り巻く環境が急速に変化するなかで、平成元年3月に"ハートフルこながい — 美しい自然と心にあふれる出会いと発見の町"をキャッチフレーズとした「小長井町総合計画（基本構想・基本計画 — 前期計画）」を策定。さらに平成8年3月には、総合計画の基本構想を柱に「後期基本計画」を策定し、社会情勢に対応したまちづくりを総合的かつ計画的に進めてきました。

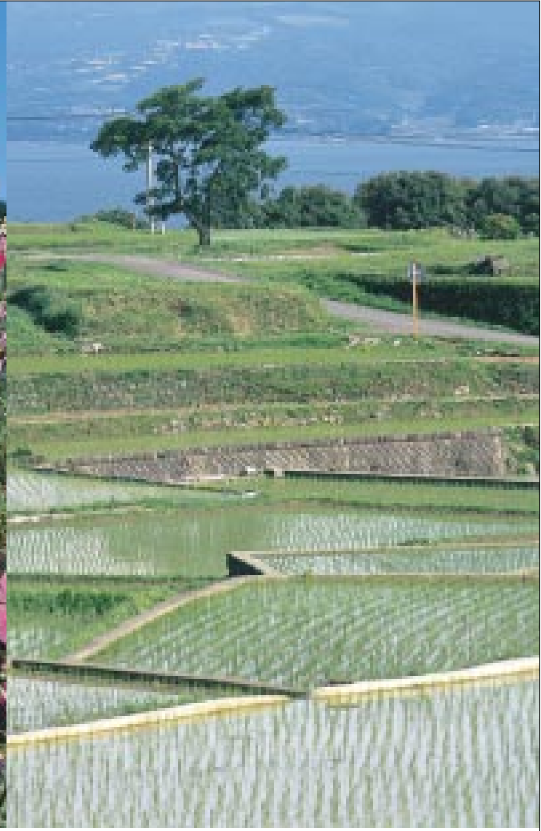
もっと快適で、豊かな暮らしを実現したい。
それはまさにすべての町民の共通の願いである。
新世紀を迎え、着実に歩みはじめた小長井町。
まちづくりの種子は町民のパワーを受け、
さらに大きな花を咲かせようとしている。

21世紀を迎えた今、全国で地方分権と市町村合併が求められており、私たちの町も大きな転換期に直面しています。このため小長井町では、町の現状や課題を踏まえながら「小長井町総合計画」を新たに策定するとともに、"ハートフルこながい — 豊かな自然に包まれ、人が元気になるまちづくり"を基本目標に掲げ、若者が住みたくなるまち、のんびり交流のまち、温かなふれあいのあるまちをめざして、住環境の整備、産業の育成、教育・文化・福祉・観光施設の充実などを積極的に図っています。

また、魅力あるまちをつくっていくためには、その原動力となる町民の参加が何よりも必要です。町では「小長井町まちづくり町民参加条例」や「小長井町環境及び景観保全条例」といった独自の政策を展開しながら、町民参加によるまちづくりを進め、町民一人ひとりが夢と希望を持ち、安心して暮らせるまちをめざしています。これからも町民の皆さんの理解と協力を得ながら、新世紀の魅力ある小長井町を築いていきたいと考えています。

小長井町長
古賀忠臣





KONAGAI DOCTRINE

理想のまちをめざして

―住民自治を実践する多彩な取り組み―

小長井町では、町民総参加のまちづくりを進めるため、
他のまちで見られない先進的な取り組みを実施している。
そこには、新世紀におけるまちづくりの姿がある。

【住民投票と二つの条例制定】

町長発議による画期的な住民投票の実施。二つの条例でさらに魅力あるまちをめざして。

小長井町では、採石場の新規計画及び拡張計画についての賛否を問う「住民投票」を平成11年7月に実施しました。その結果を踏まえた評価と町独自の二つの条例制定を含めた提言が、翌年3月に小長井町採石行政検討専門委員会から小長井町長へなされました。

採石業はこれまで町の主要産業として地域社会に貢献する一方、環境及び景観に対して大きな影響を及ぼすものとなっていました。そういった状況のなか、町長発議によって実施された住民投票は、採石業や町内の環境、景観、安全の維持・確保の課題に対する町民の意識を高めるとともに、未来の小長井町のまちづくりの方向性を決める絶好の機会となりました。

■小長井町まちづくり町民参加条例

まちづくりにおける町及び町民の役割を明らかにするとともに、町民参加の基となる事項を定めることにより、住民自治が躍動する地域社会の構築を図ることを目的にしています。

■小長井町環境及び景観保全条例

良好な環境及び景観の保全に関し、町・町民・事業者のそれぞれの責務を明確にすることにより、住み良い郷土の実現に努めることを目的にしています。

【日曜議会】

まちづくりの参加は議会から。

平成13年3月の定例議会において、初めての日曜議会が行われました。これはまちづくり町民参加条例の制定を機に、町民にも議会での議員の発言や活動を知らせ、議会を通じて町行政への関心と理解を深めてもらおうというのがねらい。当日は約130人の町民が傍聴に訪れ、モニターテレビを設置した特設の役場会議室も満席になりました。

【小長井町総合計画作成にあたっての取り組み】

町民の意見を反映した新しい「小長井町総合計画」。

小長井町では新しい総合計画を作成するにあたり、これまで町の発展を支えてきた各集落の代表者や、未来の小長井町を担う若い世代に意見を聞き、幅広い視点から新世紀のまちづくりについて議論を重ねてきました。このため新しい「小長井町総合計画」には、10年後の魅力あるまちづくりをめざした町民の意見が随所に反映されています。

■住民懇談会
■こながい夢談義
■住民意識調査
■こながいのいいところ夏休みコンクール

【市町村合併に対する取り組み】

「市町村合併シンポジウム」で、未来の小長井町について考える。

全国的に地方分権が進むなか、効率的な行政運営を行う手段として注目を集めているのが市町村合併です。小長井町では県央地区任意合併協議会(諫早市、飯盛町、森山町、高来町、森山町、多良見町、小長井町)において、平成14年4月に法定協議会を設置することを申し合わせています。また、町民の市町村合併に対する認識をさらに高めるため、平成13年12月、「市町村合併シンポジウム」を小長井文化ホールで開催し、500人を越える町民と関係者が活発に意見を交換しました。

役場窓口

議会風景

[行政・議会]

町民主体の活動を支援しながら、町民のニーズに対応できる行政システムを確立する。

まちづくりには、町民一人ひとりが町の将来を考え、その知恵と力を結集することが必要です。このため町では、「小長井町むらおこし事業実行委員会」をはじめとした町民主体の活動を積極的に支援し、町民の声を迅速に取り入れる行政システムづくりを進めています。

社会情勢が急速に変化するなか、町民の行政に対するニーズはますます多様化、高度化しています。町では、OA機器の導入による事務処理の簡素化を図るとともに、職員の資質向上や役場内のスムーズな連絡調整を進め、さらに効率的な行政運営に努めています。

本町の行政機構は、町長、助役、収入役をはじめ、9課および教育委員会、農業委員会と議会によって構成されており、議会はまちづくりの一翼を担う機関として、町民から選ばれた16人の議員で運営されています。年4回の定例議会や必要に応じて開かれる臨時議会、常任委員会などを通して、町民の声を反映した活発な議論を展開し、町政の方針や予算・条例などを決定しています。

また、広域行政については、現在、県央広域市町村圏をはじめ4つの一部事務組合があり、消防、救急、給食、ごみ処理、し尿処理、火葬などの事務処理を共同で行っています。今後も構成市町の協力や連携を取りながら、さらに積極的な広域行政の推進をめざします。

町長　古賀 忠臣

助役　山下 勝紀

収入役　土井 勝義

教育長　竹田 喜八郎

議長　原 安弘

副議長　土井 信幸

役場外観

こながい イラストマップ

KONAGAI Town Illustration Map

公共施設

❶おがたま会館

❷長里町民グラウンド

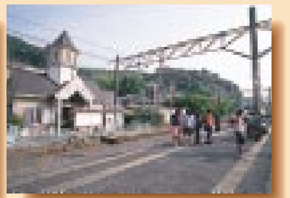
❸長里駅

❹小長井文化ホール

❺総合町民グラウンド

❻テニスコート

❼相撲場



❽小長井駅

❾さざんか会館

❿田原体育館

⓫田原町民グラウンド

学校施設

Ⓐ長里小学校

Ⓑ小長井小学校

Ⓒ小長井中学校

Ⓓ遠竹小学校

小長井町民憲章

私たちの小長井町は、美しい自然と豊かな人情と先人の偉業によって築かれてきました。
私たちは、この郷土を愛し限りない発展とさらに住みよい町づくりのために、
ここに町民憲章を定めます。

一、恵まれた自然を愛し、うるおいのあるまちをつくりましょう。
一、きまりを守り、健康で明るい清潔なまちをつくりましょう。
一、教養を高め、勤労に励み活力あるまちをつくりましょう。
一、健全な若い力を育て、ふれあいのまるまちをつくりましょう。
一、老人をうやまい、心豊かなあたたかいまちをつくりましょう。

小長井町賛歌

坂のまち、夢のまち

作詩◎島田陽子
作曲◎池田八声

一、たたずめば　有明の海が見え
歩けば　きらめく　海へ向かう
小長井は　坂のまち
石垣　美しい小径で
ひとは明るく　言葉をかわすよ
　ああ　ふるさと　小長井
　このまちで生まれ　このまちで生きる

二、高原に　山茶花の紅冴えて
おがたま　川辺に　白く咲くよ
小長井は　花のまち
みかんの　甘い香に　つつまれ
ひとは優しく　心をかよわす
　ああ　ふるさと　小長井
　このまちを愛し　このまちを歌う

三、太陽は　燃えながら　海を染め
不知火　あやしく　海を飾る
小長井は　夢のまち
みんなで　手をつなぎ　進めば
ひとは輝く　あしたに会えるよ
　ああ　ふるさと　小長井
　このまちを信じ　このまちで燃える

小長井音頭

作詩◎島田陽子
作曲◎池田八声

一、多良の山なみ　びょうぶに立てて
海へ扇を　ひらくまち
海は有明　不知火燃えて
ロマンあふれる　よいところ
　ほんなこて　よかよか　小長井町は
　沖の雲仙　見て暮らす

二、帆崎石の肌さえ　ほのかに染めて
海に真っ赤な　陽がのぼる
香りゆかしい　おがたまの木の
白い花にも　陽が映える
　ほんなこて　よかよか　小長井町は
　ひとのこころも　春の色

三、あさり　たいらぎ　シャッカの味に
忘れられない　むつごろう
夏はきんしゃい　カンテラゆれて
ビッシ取る浜　灯のまつり
　ほんなこて　よかよか　小長井町は
　海の恵みが　あふれてる

四、日本一なら　井崎の浮立
笛も見事な　まっこみよ
目島くんちで　にぎわう頃は
みかん娘も　お年頃
　ほんなこて　よかよか　小長井町は
　宝つたえて　花咲かす

五、眺めはるかな　山茶花高原で
描くみんなの　若い夢
牛が啼いてる　緑のまちは
寄せる笑顔で　伸びてゆく
　ほんなこて　よかよか　小長井町は
　明日へひらいた　舞扇

【町章】
町章は小長井を図案化したもので、頂点の「▲」は、小長井の地形を表し、これを中心として「長井」が、がっちりと組み合って一体融和を表現しています。

【町の花】山茶花
寒季に咲くこの可憐な花は、古くより人々の心をとらえてきました。私たちの祖先が親しんできたこの花が本町では山茶花の地名にもなり、岳の新太郎さんの歌にも唄われ、本町住民に最もなじみ深い花になっています。

【町の木】小長井のオガタマノキ（黄心樹）
モクレン科の常緑高木で、春先にやや紫色を帯びた白色の花をつけ、芳香を放つ古今伝授三木のひとつ。「小長井のオガタマノキ」は、樹齢1,000年以上、樹周9mの全国屈指の大木で国の天然記念物に指定されており、本町を代表する木として親しまれています。

◎小長井町の沿革
　小長井町はもともと諫早藩の所領で、遠竹村、井崎村、小川原浦村、田原村、長里村の5か村に分かれていました。明治12年、小川原浦村、長里村、井崎村の3か村となり、明治22年の町村施行により3か村が合併し、その頭文字をとって小長井村が誕生。昭和41年11月1日町制を施行し小長井町として新しく出発、現在に至っています。

◎位　置
●東　経／130°7′29″～130°12′4″
●北　緯／32°54′10″～32°57′16″
●東　西／約6km　南北／約7.5km
●総面積／30.93km²
　小長井町は長崎県北高来郡の北東部に位置し、西側は高来町に、東側は佐賀県藤津郡太良町に隣接し、南側は有明海に面しています。

◎地　勢
　西北に多良連山を抱き、南の有明海へ扇状に展開している小長井町は、東西6km、南北7.5km、海岸線を底辺とする二等辺三角形をなしています。土地は西北に高く、次第に東南に傾き、長里川など主要河川が渓谷をなして有明海に注ぎ、その河川を中心に水田を造成。多良岳よりスロープを描く丘陵地帯には畑地が展開しています。海岸線に沿ってJR長崎本線が走り、これに並行して国道207号が通じ、交通の便は比較的恵まれており、集落は各河川の沿岸や国道近くから発展。ほとんどは各地域に散在し、整備された道路で連絡しています。

◎地　質
　地質は火成岩で、新世紀の頃、阿蘇火山脈に属する多良岳活動によって生じた安山岩層の新火成岩。面積30.93km²のうち長里、築切などの干拓地を除くと平地には恵まれていません。